見よう！笑おう！
日本の古典

室町時代の
新喜劇！



山科区誕生

50

令和8年度 京都市東部文化会館〈伝統芸能シリーズ〉

地域のみんなの狂言鑑賞会

令和9年 1月24日（日）

【開場】12時30分
【開演】13時
【終演予定】14時30分

【出演】
大蔵流狂言 茂山千五郎家 茂山逸平 他

【内容】
●狂言
「柿山伏」
「附子」



6年生の国語の教科書に載っているよ！本物を見に来てね！

●狂言の紹介

●小学生による体験プログラム
※10名、事前申込先着順。詳細は下記QRコードへ



入場無料
要整理券
定員550名
先着順

申込方法

●小学生と保護者…11月22日(日)午前10時から
※web申込のみ

詳細コチラ→

●一般…12月6日(日)午前10時から
※会館窓口にて整理券配布(お一人様2枚まで)
（電話・メール・FAXでの予約不可）

「あつまれ！京（みやこ）わくわくのトビラ」を応援します。

京都市東部文化会館 ホール

受付時間▶9:00～17:00　休館日▶毎週火曜日及び年末年始（12/28～1/5）
〒607-8169 京都市山科区椥辻西浦町1-8　TEL 075-502-1012
HP▶https://www.kyoto-ongeibun.jp/toubu/

◆地下鉄東西線「椥辻駅」下車1番出口徒歩7分
京阪バス「八反畑」下車徒歩2分
※駐車場（有料）は数に限りがあるため、
できる限り公共交通機関をご利用ください。



【主催】京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）・京都市
【後援】京都市教育委員会



昔の人も、泣いて、笑って、失敗しました。
いつの時代も人間は変わりません。



ようこそ、狂言の世界へ。

狂言は、日本の古典芸能の一つです。

同じ古典芸能である能とは、いつも一緒に演じられてきた、いわば兄弟のような関係ですが、その性格はかなり異なります。

有名な観阿弥・世阿弥父子によって室町時代に大成された能には、笑いの要素は一切ありません。とても真面目な、シリアスなお芝居です。一方で、狂言は喜劇、つまりお笑い、コメディなのです。また、能の多くは古典作品を題材にしているため、その登場人物は有名な歴史上の人物であることも多いのですが、狂言には有名人はほとんど出てきません。名もない庶民の日常生活の中で、笑いの世界が繰り広げられます。

狂言で使われる言葉は、室町時代の話し言葉です。もちろん今は使わない言葉もありますが、その演技を見ながら聴いていると、思ったよりも理解できるのではないでしょうか。言葉も違い、服装も違う。でも、狂言の登場人物を見ていると、身近な誰か、時には自分に似ている、と思うかもしれません。時代が変わっても、みんなやることや考えることは同じ。人間の本質は変わらないのだということを、狂言は笑いを通して私たちに語りかけてくれます。

京都女子大学 文学部 国文学科 准教授
川島 朋子

茂山千五郎家

江戸時代初期から京都在住の狂言師の家として活躍。身近で楽しめるという意味の「お豆腐狂言」を家訓として、現代に生きる狂言を披露し、全国の能楽堂、市民ホール、小学校などで数多くの上演を行っています。新作狂言や、オペラや演劇など他分野との共演も積極的に行っており、国内での活動はもとより、海外においても数多くの上演活動を展開しています。



茂山 逸平氏



さても さても うまいことじゃ。

附子

所用で出かける主人は、召使いの太郎冠者と次郎冠者にるす番を言いつけます。その時、附子という猛毒を持ってきて、「これは附子という猛毒で、風に当たっただけでも死ぬから、絶対に近づかぬように。」と言い残して行きます。

二人は附子が気になって、恐る恐る近づき、中を見ると毒ではなくて水あめでした。

二人は夢中になって全部食べてしまいます。このままだと主人に怒られると思った二人は、言い訳のために大事な掛け軸や茶碗をこわしてしまいます。





これは鳴かずばなるまい。

柿山伏

出羽の国、羽黒山の山伏が、大峰山での修行を終えて帰る道で、おなかが減って来ました。あたりを探すと、そこには柿畑があって、おいしそうな柿の実が実っています。

山伏が柿の木に登って、夢中で柿を食べているところを、見回りに来た畑主に見つかってしまいます。

木の上にいる山伏は、色々な動物の真似をさせられ、最後は木から落ちてしまいます。